

6 高齢の薬剤耐性菌感染症に対する麻黄 附子細辛湯の効果

鳥海善貴^{1,2} 亀井 勉^{1,2} 熊野宏昭³ 富岡治明⁴

¹島根難病研 ²ナーシングセンターひまわり

³東北大・医・人間行動学 ⁴島根医大・微生物学

〔目的〕昨年われわれは、1/2 服用量の麻黄附子細辛湯投与が薬剤耐性菌に対して有効であった3例を報告した。今回、3日間のOFLX投与でCRP値が基準値に戻らない高齢の有熱者6例に、麻黄附子細辛湯（コタロー麻黄附子細辛湯エキスカプセル〔以下NC127〕、1日服用量は6カプセル〔1200mg〕）を1/2の服用量で用い、体温とCRP値の変化を調べた。

〔症例〕検討した6症例（平均年齢89.2歳）はいずれも高齢の有熱者で、咽頭培養・尿培養などでMRSA・緑膿菌などの細菌が検出された、呼吸器ないし尿路の感染症例であった。OFLX投与前は、体温は37.7℃～38.1℃（1例は39.9℃）で、CRPの平均値は4.26mg/dlであった。3日間のOFLX投与後は、体温は37.1℃～38.0℃（1例は36.7℃まで低下した。）で、CRPの平均値は3.72mg/dlと依然高い値であった。そこで、NC127を600mg/日にて7日間投与したところ、体温はいずれも36℃台まで低下し、CRPの平均値は0.92mg/dlにまで改善した。なお、CRP値が1.0mg/dl以下にならなかった2症例は、慢性気管支炎ないし多発関節炎の基礎疾患を有していた。

〔考察〕医療・福祉施設に入院・入所中の高齢者では、MRSAや耐性緑膿菌などの薬剤耐性菌が出現しやすいが、菌交代現象にて弱毒菌感染も多いため起炎菌同定の機会を逃しやすく、その推定が困難なことも多い。それゆえ、発熱をくり返す高齢者の発熱時には、高頻度にまずOFLX等から投与して試みる人が多いが、発熱や炎症反応、特にCRP値が改善しないことは少なくない。そのような場合には、MRSAや耐性緑膿菌の増殖が推定され、3日間程度の抗菌剤投与にて解熱がみられなければ通常の1/2服用量のNC127の1週間投与の方が有効であることが示唆された。